

総合評価方法案について

1. 総合評価方法

最終候補地は、三次候補地の3箇所に対して総合評価を行い、各候補地を比較することで1箇所を選定する。総合評価における評価項目を設定する過程から、住民説明会より得られた意見を集約し、評価項目へ適宜反映する。また、現地調査及び施設配置図の検討結果に基づき、詳細な評価を行い、学識経験者・住民等で組織する選定委員会において審議検討を重ねながら最終候補地を選定する。最終候補地の選定フローを図1に示す。

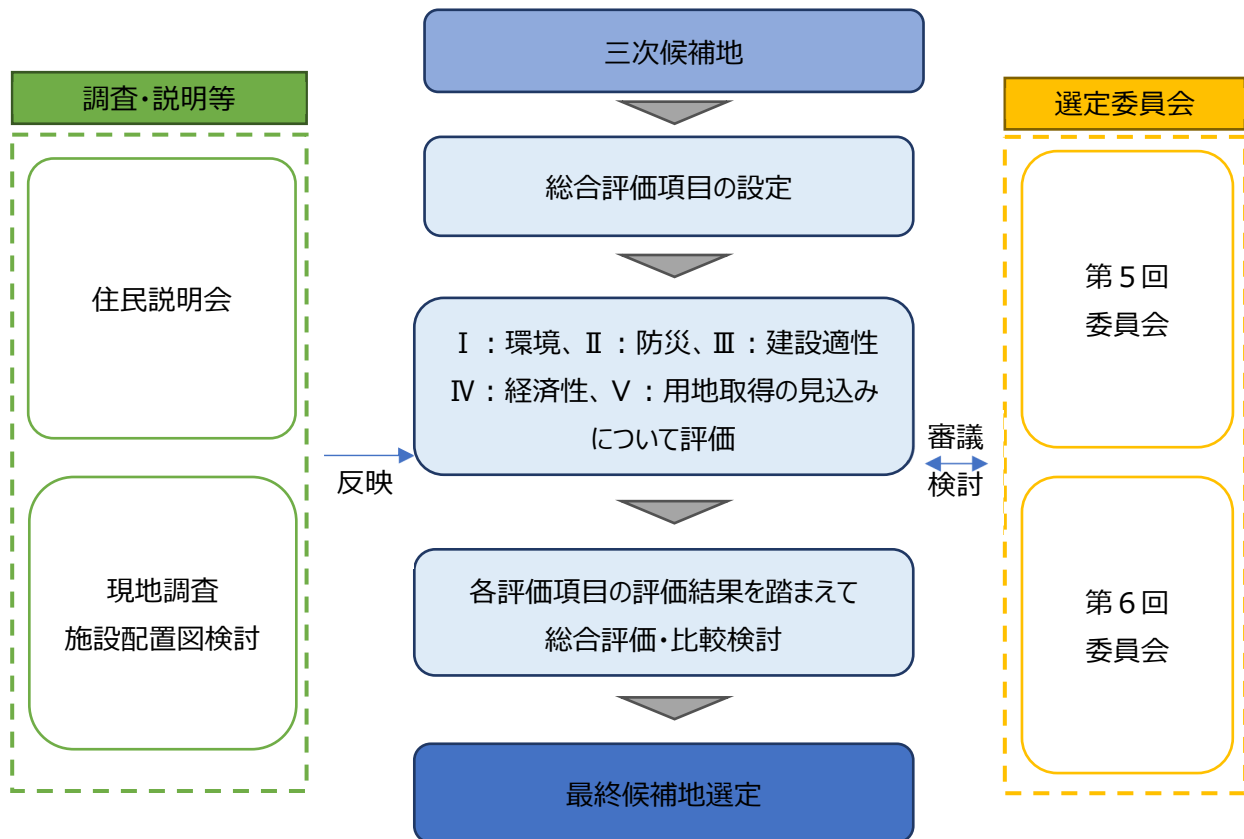


図1 最終候補地選定フロー

2. 評価項目（案）

総合評価においては、三次選定までで選定された3候補地に対して、最終処分場建設による影響を評価し、総合的に優位性が高い候補地を絞り込む。

評価項目は、三次選定の評価項目を踏まえると共に、地域住民への影響を考慮した項目とする。また、地域住民との対話の中で得られた意見を基に評価項目を精査する。

表 1 三次選定の評価項目

分類	評価項目
立地条件	運搬距離
	積雪
自然環境	植生自然度
	希少野生動物・植物
社会・生活環境	土地利用状況
	農業振興地域
	公共施設
	周辺民家
	水道水源
防災	土砂災害警戒区域等
	浸水想定区域
建設適性	造成の難易度
	地質
	搬入道路
	幹線道路
	施工性
	埋立容量の確保
経済性	概算工事費
	用地取得費
	事業費増リスク
用地取得の見込み	用地取得の見込み

表 2 総合評価における評価項目（案）

分類	評価項目
Ⅰ：環境	周辺状況（土地利用、民家の存在、公共施設、交通、景観）及び環境影響（自然環境、大気、騒音振動、悪臭、二酸化炭素排出量）
	水（河川、地下水）
Ⅱ：防災	自然災害による影響（土砂災害警戒区域等、浸水想定区域）
Ⅲ：建設適性	造成の難易度、地質、搬入道路、幹線道路、施工性、埋立容量の確保
Ⅳ：経済性	事業費（概算工事費、調査費、維持管理費）
Ⅴ：用地取得の見込み	用地取得の見込み

立地条件：運搬距離・積雪は「環境」、「経済性」の項目において、維持管理費や二酸化炭素排出量といった内容で評価を行う。

自然環境：最終処分場の整備時に配慮する事項であり、項目として設定。

社会・生活環境：特に地域住民が懸念する点であり、項目として設定。

防災：特に地域住民が懸念する点であり、項目として設定

建設適性：処分場建設にあたり重要な項目であるため、項目として設定。

経済性：自治体にとって重要な項目であるため、項目として設定。

用地取得の見込み：建設可能性に関する事項であり、項目として設定。定量的な評価が難しいため、点数化は行わない。

3. 評価基準及び評価内容

総合評価基準は以下に示すとおりである。Ⅰ：環境、Ⅱ：防災、Ⅲ：建設適性に関しては最終処分場候補地としての適性を評価する。Ⅳ：経済性は、各候補地の事業費を相対的に評価する。Ⅴ：用地取得の見込みは、地域住民の最終処分場整備に関する意見やアンケート結果等をもって評価する。

次項の表3に3次選定の評価基準を、表4に総合評価における評価基準及び評価内容を示す。本委員会においては、表4の内容について議論頂きたい。

Ⅰ：環境、Ⅱ：防災、Ⅲ：建設適性の評価基準

各評価項目に対して、最終処分場候補地としての適性を評価する。

A：最終処分場候補地としての適性が高い

(課題があるが対応可能であり、特筆すべき優位性がある)

B：最終処分場候補地としての適性が標準程度(課題あるが対応可能である)

C：最終処分場候補地としての適性が低い(課題が多い、あるいは対応が困難な課題がある)

Ⅳ：経済性の評価基準

各候補地の事業費について相対的に評価する。

A：事業費が比較的安価である

B：事業費が標準程度である

C：事業費が比較的高価である

Ⅴ：用地取得の見込みの評価基準

地域住民の最終処分場整備に関する意見やアンケート結果等をもって評価する。

表 3 三次選定における評価項目及び評価基準

分類	三次選定の評価項目	評価基準
立地特性	運搬距離	◎：候補地まで 20km 以下 ○：候補地まで 20km より大きく 35km 未満 △：候補地まで 35km 以上
	積雪	◎：候補地の垂直積雪量が 0.15m 以下である ○：候補地の垂直積雪量が 0.15m より大きく、0.25m 以下である △：候補地の垂直積雪量が 0.25m より大きい
自然環境	植生自然度	◎：植生自然度が 1～3 である ○：植生自然度が 4～6 である △：植生自然度が 7～10 である
	希少野生動物・植物	◎：該当しない ○：— △：該当する
社会・生活環境	土地利用状況	◎：山地、荒地、空地、林地 ○：田畑 △：その他、建設に支障がある建造物が存在する
	農業振興地域	◎：候補地内に指定区域がない ○：候補地内に指定区域が一部該当する △：候補地内の全範囲が指定区域に該当する
	公共施設	◎：公共施設から候補地までの距離が 600m 以上 ○：公共施設から候補地までの距離が 300m 以上～600m 未満 △：公共施設から候補地までの距離が 300m 未満
	周辺民家	◎：民家から候補地までの距離が 600m 以上 ○：民家から候補地までの距離が 300m 以上～600m 未満 △：民家から候補地までの距離が 300m 未満
	水道水源	◎：候補地の下流 1km 以上 ○：候補地の下流 500m より大きく 1km 未満に存在する △：候補地の下流 500m 以内に存在する
防災	土砂災害警戒区域等	◎：候補地内に指定区域がない ○：候補地内に指定区域が一部該当する △：候補地内の全範囲が指定区域に該当する
	浸水想定区域	◎：候補地内に指定区域がない ○：候補地内に指定区域が一部該当する △：候補地内の全範囲が指定区域に該当する
建設適性	造成の難易度	◎：処分場の造成において課題がない ○：処分場の造成において課題が少ない △：処分場の造成において課題が多い
	地質	◎：施設建設において課題がない ○：施設建設において課題が少ない △：施設建設において課題が多い
	搬入道路	◎：搬入道路の延長が 500m 以下かつ搬入道路取付に課題なし ○：500m 以下かつ搬入道路取付に課題あり、または、500m より長いかつ搬入道路取付に課題なし △：500m より長いかつ搬入道路取付に課題あり
	幹線道路	◎：幹線道路における整備において課題がない ○：幹線道路における整備において課題が少ない △：幹線道路における整備において課題が多い
	施工性	◎：建設工事での施工性について課題がない ○：建設工事での施工性について課題が少ない △：建設工事での施工性について課題が多い
	埋立容量の確保	◎：埋立容量の確保が容易であり、非常時には候補地内における埋立地周辺の利用も可能である ○：埋立容量の確保が容易であるが、候補地内における埋立地周辺にはそれほど余裕はない △：埋立容量の確保には工夫が必要である
経済性	概算工事費	◎：埋立容量 1m ³ 当たりの工事費が 3 万円以下 ○：埋立容量 1m ³ 当たりの工事費が 3 万円より大きく 5 万円以下 △：埋立容量 1m ³ 当たりの工事費が 5 万円より大きい
	用地取得費	◎：他の候補地と比較して、用地取得費が安価 ○：他の候補地と比較して、用地取得費が同等程度 △：他の候補地と比較して、用地取得費が高額
	事業費リスク	◎：事業費が増加するリスクは現段階ではない ○：事業費が増加するリスクがあるが、軽微なものである △：事業費が増加するリスクがあり、その影響が大きい
用地取得の見込み	◎：用地取得において課題がない ○：用地取得において課題が少ない △：用地取得において課題が多い	

表 4 総合評価における評価項目及び評価基準（案）

分類	総合評価項目	評価基準	【細目】評価内容
I：環境	周辺状況（土地利用、民家の存在、公共施設、交通、景観）及び環境影響（自然環境、大気、騒音振動、悪臭、二酸化炭素排出量） 水（河川、地下水）	A：最終処分場候補地としての適性が高い （課題があるが対応可能であり、特筆すべき優位性がある） B：最終処分場候補地としての適性が標準程度（課題あるが対応可能である） C：最終処分場候補地としての適性が低い（課題が多い、あるいは対応が困難な課題がある）	◆ 土地利用状況、周辺民家、近隣の公共施設に関する基礎データを収集（施設配置図に基づき重点的に調査）
			◆ 公共施設から候補地までの距離を設定し、 大気、騒音振動、悪臭の影響（最終処分場の稼働、廃棄物運搬車両による影響）を予測評価
II：防災	自然災害による影響（土砂災害警戒区域等、浸水想定区域）		◆ 周辺民家から候補地までの距離を設定し、 大気、騒音振動、悪臭の影響（最終処分場の稼働、廃棄物運搬車両による影響）を予測評価
			◆ 道路や民家からの 最終処分場の見え方（景観）を予測評価
III：建設適性	造成の難易度、地質、搬入道路、幹線道路、施工性、埋立容量の確保		◆ 廃棄物運搬車両の通行ルートを設定し、 幹線道路の渋滞を予測評価
			◆ 最終処分場の建設による 自然環境への影響を評価
IV：経済性	事業費（概算工事費、調査費、維持管理費）	A：事業費が比較的安価である B：事業費が標準程度である C：事業費が比較的高価である	◆ 廃棄物運搬車両の通行による 二酸化炭素排出量を予測評価
			◆ 浸出水処理水の放流先を設定し、 河川水質に与える影響を予測評価
V：用地取得の見込み			◆ 最終処分場の存在により、 地下水や下流の水道水源に与える影響を評価
			◆ 土砂災害警戒区域等の該当状況を調査し、 最終処分場の損壊の可能性や発災時における交通網の状況等を評価
			◆ 浸水想定区域の該当状況を調査し、 最終処分場の損壊の可能性や発災時における交通網の状況等を評価
			施設配置図の詳細検討により、以下の項目における課題への対応策検討及び難易度を評価
			◆ 処分場の造成に関する課題
			◆ 地質的課題
			◆ 搬入道路に関する課題
			◆ 幹線道路に関する課題
			◆ 建設工事における施工上の課題
			◆ 埋立容量の確保に関する課題
			◆ 概算工事費、調査費、維持管理費を算出し、事業費として取りまとめる。
V：用地取得の見込み 地域住民の最終処分場整備に関する意見やアンケート結果等をもって評価する。			

※「_」部は三次選定において評価した内容である。

※赤字は総合評価において追加的に検討・影響予測を行う内容である。

■施設配置図詳細検討内容

- ✓ 浸出水処理施設・浸出水貯留施設規模
：各候補地における近隣の観測所データを用いて検討を行う。処理水の放流先（案）を検討する。
- ✓ 防災調整池：各候補地の流域面積等を考慮し、調整規模の概略検討を行う。
- ✓ 管理施設：上下水道及び電線の整備状況等より、施設配置の合理化を行う。

4. 総合評価例

表5に各候補地の評価（例）を、表6に総合評価（例）を示す。総合評価は、各候補地の評価結果をもとに実施する。

表5 各候補地の評価（例）

分類及び評価項目		評価	候補地●		
			●●町△△		
I…環境	周辺状況（土地利用、民家の存在、公共施設、交通、景観）及び環境影響（自然環境、大気、騒音振動、悪臭、二酸化炭素排出量）	細目	<p>周辺状況</p> <p>【土地利用】 下流の水田に配慮する必要がある。</p> <p>【民家の存在】 候補地北側700mに存在。30軒程度。</p> <p>【公共施設】 候補地南側1500mに都市公園が存在する。</p> <p>【交通】 幹線道路の混雑度は1.1から1.2となる。候補地へ進入する際に15軒の民家横を通行する。通行ルートに通学路は存在しない。</p> <p>【景観】 周辺に景観資源は存在しない。代表的な眺望地点からの景観も大きな変化がない。</p> <p>環境影響</p> <p>【自然環境】 希少野生動植物が存在する可能性があり、建設の際に配慮が必要である。</p> <p>【大気】 廃棄物運搬車両の影響により、0.001ppmの増加が見込まれるが、一般環境と比べると増加分は小さく、影響はほとんどないと評価される。</p> <p>【騒音振動】 施設の稼働により、騒音が2dB、振動が1dBの増加が見込まれるが、影響はほとんどないと評価される。廃棄物運搬車両の通行により騒音が1dB、振動が2dBの増加が見込まれるが、影響はほとんどないと評価される。</p> <p>【悪臭】 即日覆土の実施等、埋立作業の工夫により、悪臭の影響はほとんどないと評価される。</p> <p>【二酸化炭素排出量】 廃棄物運搬車両の通行により、●t-CO₂/年の排出が見込まれるが、現状と同等であり、影響はほとんどないと評価される。</p>		
	評価	B	<p>■主な課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 下流の水田に対して配慮が必要である。 建設時に自然環境（希少野生動植物）に対して配慮が必要である。 		
II…防災	自然災害による影響（浸水想定区域、土砂災害警戒区域）	細目	<p>【河川水】 浸出水の放流先として想定される河川の流域は25haであり、そのうち候補地は3haである。</p> <p>【地下水】 周辺に水道水源は存在しない。</p>		
		評価	B	<p>■主な課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 放流先と想定される河川は類型指定されておらず、環境基準が適用されないが、農業用水として利用されている可能性もあり、放流水質には十分配慮する必要がある。 	
III…建設適性	造成の難易度、地質、搬入道路、幹線道路、施工性、埋立容量の確保	細目	<p>【浸水想定区域】 ●●川の氾濫を想定した水害は、街の中心部に浸水被害を及ぼす。候補地周辺は浸水想定区域となっておらず、被害はないものと想定される。運搬ルート上の一部は浸水想定区域となっており、発災時は迂回する必要がある。</p> <p>【土砂災害】 候補地周辺で土砂災害が想定される場所はなく、運搬ルート上も土砂災害被害が想定される場所はない。</p>		
		評価	A	<p>■主な課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 特になし。 ■特筆すべき優位性 候補地周辺において、浸水や土砂災害が想定される区域はなく自然災害による影響はほとんどないと評価される。 	
IV…経済性	事業費（概算工事費、調査費、維持管理費）	細目	<p>【造成の難易度】 現地形での左右岸の傾斜が急であり、造成に多少の制約が生じる。</p> <p>【地質】 日向層群の頁岩層で構成されており、軟質で風化が著しいが、土砂化した表土は薄い。掘削面により流れ盤になる可能性がある。</p> <p>【搬入道路】 幹線道路から●●m程度の搬入道路の整備が必要となる。搬入道路のルートによっては尾根を開削するなど比較的大きな造成が生じることが想定される。</p> <p>【幹線道路】 廃棄物運搬車両が走行するにあたり、障害となるような箇所はない。</p> <p>【施工性】 沢の縦断勾配は緩やかであり、重機・工事車両の場内での走行ルートを確保することは比較的容易である。埋立地の整備にあたり、当該地まで工事車両が進入するルートがないため、搬入道路を先に整備する必要があり、搬入道路と埋立地の同時施工は困難である。</p> <p>【埋立容量の確保】 埋立容量の確保は容易であるが、近隣地に大きな沢などがいないため、埋立覆土の仮置場等の確保は困難である。</p>		
		評価	A	<p>■主な課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 搬入道路延長が長く、大規模な造成が必要となるが、尾根を開削することで搬入道路を300m程度に短くすることができる。 掘削面が流れ盤になる可能性がある。流れ盤とならないよう掘削面を設けることや、グラウンドアンカーなどの法面対策を実施することで対応可能である。 覆土の仮置場の確保に課題がある。 	
<p>【概算工事費】 概算工事費は総計約●●億円となり、埋立容量1m³あたり●万円である。</p> <p>【調査費】 調査費は設計業務、測量調査、地質調査、生活環境影響調査業務等に係る費用で合計●億円である。</p> <p>【維持管理費】 維持管理費は埋立中、閉鎖後から廃止までの費用とし、合計で●●億円である。</p>		評価	A	<ul style="list-style-type: none"> 概算工事費●●億円、調査費●億円、維持管理費●●億円となり、合計で●●億円となる。 ■特筆すべき優位性 他候補地と比較して事業費合計は●●億円（3候補地の平均●●億円に対して●%）安い。 	
<p>点数</p> <p>(A:2点、B:1点、C:0点)</p>		<p>7 /10</p>			
V：用地取得の見込み		評価	<p>合計2回の住民説明会の参加者はのべ●名であった（居住者全体の●%）。</p> <p>住民説明会では、「地区内を走行する廃棄物運搬車両による影響を最小限にすること」、「悪臭に対する対策をしっかりと講じること」、「農作物への被害を考えると反対」、「地域住民と密にやり取りをする必要がある」、「地域住民の憩いの場となるような施設としてほしい」等の意見があった。主に交通や農作物に対する関心が高い。</p> <p>アンケートの結果では、「農業用水への影響が心配である。」「自宅から見える位置であり、景観を害するおそれがあるため反対である。」といった意見があった。</p>		

注：上表は、評価の例であり、特定の候補地を評価したものではない。

表 6 総合評価 (例)


項目		候補地●		候補地●		候補地●		
		●●町△△		●●町△△		●●町△△		
評価	Ⅰ：環境	周辺状況（土地利用、民家の存在、公共施設、交通、景観）及び環境影響（自然環境、大気、騒音振動、悪臭、二酸化炭素排出量）	B	下流の水田に対して配慮が必要である。建設時に自然環境（希少野生動植物）に対して配慮が必要である。	B	(環境に関する評価を記載)	B	(環境に関する評価を記載)
		水（河川、地下水）	B	放流先と想定される河川は類型指定されておらず、環境基準が適用されないが、農業用水として利用されている可能性もあり、放流水質には十分配慮する必要がある。	B		A	
	Ⅱ：防災	自然災害による影響（浸水想定区域、土砂災害警戒区域）	A	主な課題はなく、候補地周辺において、浸水や土砂災害が想定される区域はなく自然災害による影響はほとんどないと評価される。	B	(防災に関する評価を記載)	A	(防災に関する評価を記載)
	Ⅲ：建設適性	造成の難易度、地質、搬入道路、幹線道路、施工性、埋立容量の確保	B	搬入道路延長が長く、大規模な造成が必要となるが、尾根を開削することで搬入道路を 300m 程度に短くすることができる。掘削面が流れ盤になる可能性がある。流れ盤とならないよう掘削面を設けることや、グラウンドアンカーなどの法面対策を実施することで対応可能である。覆土の仮置場の確保に課題がある。	B	(建設適性に関する評価を記載)	A	(建設適性に関する評価を記載)
Ⅳ：経済性	事業費（概算工事費、調査費、維持管理費）	A	概算工事費●●億円、調査費●億円、維持管理費●●億円となり、合計で●●億円となる。他候補地と比較しても事業費は同程度である。	B	(経済性に関する評価を記載)	B	(経済性に関する評価を記載)	
得点		7		5		8		
用地取得の見込み		地域住民の●%程度が住民説明会に参加している。地域住民の合意は得られていない。主に交通や農作物に対する関心が高い。		(用地取得の見込みを記載)		(用地取得の見込みを記載)		
総合評価		●●町周辺は山地となっている。清掃センターからは●km の距離に位置する。環境面では、水田、河川水等に対して課題がある。防災面では影響がほとんどなく適性が高いと評価される。建設適性は、搬入道路の取付や流れ盤の可能性、覆土仮置場の確保に関して課題がある。経済性は、他の候補地と同程度と評価された。現段階で地権者や地域住民の合意が得られていないため、引き続き同意形成を図っていく必要がある。		(総合評価を記載)		(総合評価を記載)		
		用地取得の見込みは各候補地で同程度であると言える。各候補地で最終処分場候補地としての適性が低いと評価された項目はなかった。その中で候補地●は環境（水）、防災、建設適性に関する適性が他の候補地よりも優れていることから、最終候補地として選定する。						

注：上表は、評価の例であり、特定の候補地を評価したものではない。総合評価内容も仮定で記入している。

【参考資料】各候補地の評価について

以下に示す個票を作成し、評価内容の根拠資料とする（本資料は個票の抜粋である）。各候補地の評価内容（細目）ごとに作成する。記載内容は概況、最終処分場建設による影響、配慮事項等である。

分類	環境																								
評価項目	周辺状況																								
細目	交通																								
概況	<p>運搬ルートは国道●●号→国道●●号→候補地となる。幹線道路は国道●●号となる。交通センサスにおける12時間交通量に最終処分場への運搬車両を上乗せし、影響を検討する。現状の12時間交通量は●●台である。</p> <p>幹線道路から候補地内へ侵入する際民家及び通学路は通行しない。幹線道路から候補地内への浸入ルートは●●道となっており、地域住民の通行が確認されるとともに●●方向へ抜ける車両も通行する。概ねの交通量は●●台/時である。</p> <p>平成27年度全国道路・街路交通情勢調査 一般交通量調査 箇所別基本表 宮崎県</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th rowspan="2">交通基本調査間番号</th> <th rowspan="2">路線名</th> <th colspan="3">交通量観測地点地名</th> <th rowspan="2">交通量観測年月日</th> <th colspan="3">昼間12時間自動車類交通量 (上下合計)</th> </tr> <tr> <th>市 郡</th> <th>区 町 字</th> <th>丁目 村</th> <th>小型車 (台)</th> <th>大型車 (台)</th> <th>合計 (台)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>45303880110</td> <td>一般国道●●号</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td>20151006</td> <td>1812</td> <td>162</td> <td>1974</td> </tr> </tbody> </table>	交通基本調査間番号	路線名	交通量観測地点地名			交通量観測年月日	昼間12時間自動車類交通量 (上下合計)			市 郡	区 町 字	丁目 村	小型車 (台)	大型車 (台)	合計 (台)	45303880110	一般国道●●号				20151006	1812	162	1974
交通基本調査間番号	路線名			交通量観測地点地名				交通量観測年月日	昼間12時間自動車類交通量 (上下合計)																
		市 郡	区 町 字	丁目 村	小型車 (台)	大型車 (台)	合計 (台)																		
45303880110	一般国道●●号				20151006	1812	162	1974																	
最終処分場の建設による影響	<p>将来●●台/日の運搬を上乗せすると、増加率は●●であり、混雑度は●から●となる。</p> <p>廃棄物運搬車両は民家及び通学路を通行しない。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;">混雑度計算根拠</div> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0; text-align: center;">想定される通学路</div>																								
最終処分場の建設時の配慮事項	<p>渋滞に関しては問題ないと言える。</p>																								

分類	環境									
評価項目	周辺状況									
細目	景観									
概況	 <table border="1" data-bbox="566 996 1260 1310"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>候補地との位置関係</th> <th>眺望点の利用状況</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>● ●</td> <td>候補地を広く見渡すことができる眺望点である。生活道路上であり、地域住民の日常生活における視点場となっている。</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>● ●</td> <td>● ●</td> </tr> </tbody> </table>	No.	候補地との位置関係	眺望点の利用状況	1	● ●	候補地を広く見渡すことができる眺望点である。生活道路上であり、地域住民の日常生活における視点場となっている。	2	● ●	● ●
No.	候補地との位置関係	眺望点の利用状況								
1	● ●	候補地を広く見渡すことができる眺望点である。生活道路上であり、地域住民の日常生活における視点場となっている。								
2	● ●	● ●								
最終処分場の建設による影響	<p>候補地近辺の主要な景観資源は田園景観である。候補地から●km 遠方であり、景観資源に対しては影響を及ぼさないと考えられる。</p> <p>沿道や集落内の神社といった代表的な眺望地点での景観の概況は以下のとおりである。最終処分場の建設により、●●道の拡幅工事が必要であり、景観が大きく変化すると予測される。道路拡幅により、視野に占めるコンクリート構造物の割合が増加すると共に、植林地の伐採も伴うことから見通しが開ける。</p>									
最終処分場の建設時の配慮事項										

分類 **環境**

評価項目 **環境影響**

細目 **大気**

概況 候補地の最も近傍で大気質の調査を行っている地点は、●●であり、2022 年度調査結果は、NOx が 0.004ppm、SOx が 0.002ppm であった。各項目の環境基準値は 0.06mg/L、0.04ppm である。

2020年度 測定項目：二酸化硫黄 PAGE 1

異種別	調査局	測定地点	測定項目	測定時間	年平均値	15分間値が 0.1ppm を超えた 回数の割合		1時間値が 0.1ppm を超えた 回数の割合		24時間値が 0.1ppm を超えた 回数の割合		1時間値の 最高値		24時間値の 最高値		日平均値が 0.06mg/L 以上の値に なった回数 (日数×観測)	環境基準の 達成状況 (0.06mg/L を超過した日 数)	1時間値の 合計			
						(回)	(%)	(回)	(%)	(回)	(%)	(ppm)	(ppm)								
一般		住	316	0553	0.001	0	0.0	0	0.0	0.012	0.012	0.006	○	0	7.420						
一般		住	363	0665	0.002	0	0.0	0	0.0	0.028	0.028	0.004	○	0	15.407						
一般		業	349	0402	0.002	0	0.0	0	0.0	0.056	0.056	0.009	○	0	20.170						
一般		住	246	0391	0.002	0	0.0	0	0.0	0.039	0.039	0.005	○	0	15.207						
一般		住	257	0619	0.002	0	0.0	0	0.0	0.043	0.043	0.007	○	0	13.507						
一般		業	261	0417	0.002	0	0.0	0	0.0	0.036	0.036	0.005	○	0	14.514						
一般		業工	260	0453	0.002	0	0.0	0	0.0	0.043	0.043	0.006	○	0	15.833						
一般		住	351	0402	0.001	0	0.0	0	0.0	0.041	0.041	0.004	○	0	8.202						
一般		業	255	0553	0.001	0	0.0	0	0.0	0.063	0.063	0.005	○	0	6.163						
一般		業	261	0449	0.001	0	0.0	0	0.0	0.054	0.054	0.006	○	0	7.370						
一般		住	312	0566	0.002	0	0.0	0	0.0	0.056	0.056	0.014	○	0	14.574						
一般		住	257	0553	0.001	0	0.0	0	0.0	0.066	0.066	0.007	○	0	12.006						
一般		業	262	0570	0.001	0	0.0	0	0.0	0.040	0.040	0.002	○	0	8.515						
一般		業工	265	0466	0.001	0	0.0	0	0.0	0.032	0.032	0.004	○	0	6.556						
一般		住	265	0499	0.002	0	0.0	0	0.0	0.067	0.067	0.006	○	0	14.025						
一般		住	259	0440	0.001	1	0.0	0	0.0	0.117	0.117	0.008	○	0	8.919						
計測		住	262	0452	0.002	0	0.0	0	0.0	0.039	0.039	0.005	○	0	14.836						
計測		業	264	0460	0.000	0	0.0	0	0.0	0.020	0.020	0.002	○	0	2.760						

最終処分場の建設による影響

最終処分場が存在することで、重機の稼働及び廃棄物運搬車両による大気質の悪化が想定される。重機の稼働による大気質は最大で●●mg/L の増加が見込まれる。廃棄物運搬車両の通行により、最大で●●ppm の増加が見込まれる。

ブルーム・パフ式による大気質予測計算結果

廃棄物運搬車両による NOx,SOx の予測結果